



「秋菊図」F120号 1,980,000円

古代から続く伝統画材を研究し、  
野に自生する草花や枯葉の姿を描き、  
一枚の「絵」を通じて草花と人々のご縁を繋ぎます。



日本美術院 院友 / 美術史学会 / 九州藝術学会 所属

**立木美江** TACHIKI YOSHIE

九州産業大学大学院 芸術学部東洋美術史専攻 博士号取得(美術博士)

2007年 再興第92回 院展個人展

2010年 日本美術院 院友に準ず

2013年 空想美術大賞展 特別奨励賞受賞

2020年 アメリカ・Var Gallery グループ展参加

京都・蔵匠画廊・個展

2021年 福岡三越・個展「立木美江日本画展」

2022年 ふくおかフィナンシャルグループ 2023年カレンダーに採用

2023年 松坂屋上野店・個展「立木美江日本画展 天然自然」

九州産業大学大学院 芸術学部東洋美術史専攻 博士号取得(美術博士)

第10回「アムテ」論文奨励賞「九州藝術学会学術論文賞(福岡大学)」

作家来場 11月3日(金・祝)～5日(日)



「夜雨図」F10号 330,000円

道端に生えている野草は窠野を題材にした日本画の伝統的な画題「武蔵野図」に通じ、その姿を岩絵具の光彩で描くと、無数の星屑のように輝いて見えます。飾らない其静な美しさは月光に通じ、自然と距離が近い日本の風土、足元広がる小宇宙を感じてもらえたら嬉しいです。



「燈籠花」F8号 264,000円



「自然生」F4号 132,000円



「コクラコ」F4号 132,000円

画業と並行して2022年より「日本画ラボ」主宰として活動。福岡・熊本にある美術館古墳で描かれたカラフルな色彩は現代の絵具の具の原型にあたり、福岡とも縁の深い郷土の画材です。福岡・大分・岐阜で作られた和紙が正倉院に所蔵されており、現代にまで八女和紙や林月和紙などが県内で伝承されています。世界にも稀に見る古代から継承されてきた伝統画材と技法を現代に継承している日本画は、画家が絵を描く事と同様に筆・墨・和紙・岩絵具など各分野の職人の丁寧な仕事によって支えられています。

日本の色数は世界一とも言われており、伝統はブランドとも評価され、海外では非常に人気の高い日本画ですが、国内では「日本画はなれ」が報道されるなど課題が浮き彫りとなってきました。環境資源を生かす和紙や自然由来の絵具は、世界でも古い絵具の製造法の1つであり、自然への配慮も可能な天然素材として環境配慮することにも通じています。職人の交接と日本画教育の普及を目的に日本画の歴史、学習方法、画材、展示など幅広くできる「場」と「情報」を発信などを通じて次の千年へ継承し続ける活動に取り組んでいます。



ふくおかフィナンシャルグループ2023年度カレンダーに採用・福岡本店で展示